

## JTBグループ労働組合連合会 第23回震災復興支援活動

JTBマネジメントサービス労働組合

佐々木 雅大

日 時：2016年10月28日（金）～10月29日（土）

場 所：福島県南相馬市

参加人数：25名

### 1. 活動参加にあたって

私は東日本大震災が発生した当時はまだ高校3年生で受験勉強をしている頃でした。丁度自宅で受験勉強をしている時に発生しましたが、大きな揺れで怖い思いをしました。震災の影響で高校の卒業式、大学の入学式も中止となり本当に大きな災害が起きてしまったのだと強く感じたことをよく覚えています。

大学入学以降中々現地に行くことができずにもどかしい思いもある中、2014年3月に宮城県の気仙沼市、岩手県大船渡市で慰問演奏をする機会をいただき現地に初めて行ってきました。そこで実際に罹災した方々とお話して、夜がくるのが怖くなってしまった、何よりも風化されて忘れられてしまうことが怖いといわれたことをよく覚えています。

今年で社会人生活も2年目となり、何かまた被災者の方のためにできることはないかと考える余裕ができてきた時に丁度ボランティア募集のご連絡をいただき、5月の第22回に続いて参加をさせていただきました。

### 2. 活動内容について

○1日目：10月28日（金）

今回も前回同様、南相馬市のボランティアセンターへ依頼の来た仕事をボランティア団体ごとに割り振っていただき、団体毎に作業を行いました。

私達が行った作業は家屋の周りに茂ってしまった雑草と木の処理でした。南相馬市は2016年の7月に避難指示区域が解除され、ようやく避難者の方々が昼夜を通して自宅に帰れるようになりました。しかしながら、避難指示の解除に5年間もかかったため雑草が生えてしまうだけではなく遠くから飛ばされてきた種子が成長し、木までもが立っていました。これらを刈り取り、また住み始められるようにする作業を行ってきました。

季節がら柿の実や枯葉などが多く落ちており、最初はまずそちらを片づけていく作業を行いました。これだけで午前中いっぱいかかりました。その後、木を伐採するなどの作業を行ってきました。

午後3時ごろまで5時間ほどの作業でしたが、全員で協力して活動に取り組んだため、作業前と後では明らかに風景が変わり成果を実感することができました。しかしながら、

作業範囲が広がったこと・3時ごろから雨が降り始めてしまったこともあり、残りの作業は翌日に持ち越しとなりました。

○2日目：10月29日（土）

2日目もまずはボランティアセンターへ集合し、作業の割り振りを待ちました。前日に終了しなかった作業を継続して行うのかと思っていましたが、人数の関係もあり、2日目は津波で押し流されてきてしまった土砂の撤去作業の担当となりました。海から運ばれてきた土砂はある程度は一箇所に集められているようでしたが、雑草が生えていたり、石なども混ざっていて集めて運ぶのはかなり労力を伴うものでした。

集めた土砂は軽トラックにのせて100メートルほど離れた別の集積場所へ運び、そこで降ろすという作業の繰り返しでした。その作業をしているだけでは、実際にその土砂が津波によって運ばれてきたものか、単に堆積したものなのかはわかりませんが、作業を進める中で布団のようなものや、レンガなども出てきたので家屋から流されてきてしまったものなのだと実感しました。量も非常に多く、軽トラックも何度往復したかもわかりません。これだけの量は個人で対応しきれるようなものではないと強く感じました。



【2日目の作業前】



【2日目の作業後】

### 3. 今回の活動を通して

今回の活動は1日目・2日目ともに力と人数を必要とする作業でした。私たちは人数も多かったため数時間の作業でもかなり作業を進めることができたのかなと思います、こ

れを依頼者の方がご自身でやっていたとしたら、時間も手間もかかり辛いものになってしまったのではないのでしょうか。

毎朝センター長から仕事の割り振りの際に一言お話がありますが、今回のお話で印象的だった内容を少しご紹介させていただきます。震災から5年経過しているということもあり、ボランティアに来る人の数が減少してしまっているそうです。確かに前回私たちが南相馬市に来た際にはセンター内に入りきれないほどの人数がいたと思います。しかし、今回は入りきれないということはなく、前回の半分ほどしかいなかったのではないかと思います。これにより、ボランティアセンターで依頼を受けても捌ききれなくなってしまうっており、現状ではセンターの宣伝活動などをおこなわずに、ひっそりと活動しているとのことでした。世間の関心は移りやすいものですが、実際に現地においてみるとまだまだ復興は進んでおらず、住民の方々が安心して生活できるようにするためには私たちのような若い力が必要だと実感しました。これからも関心を持ち続けることがとても大切だと思います。

前回5月に参加させていただいてから今回の10月までの半年間でも少しずつ復興が進んでいるのかなと感じることのできる良い面もありました。半年前にはコンビニなどはなく、生活に必要なものを調達する場所さえないように見受けられました。しかし今回改めて訪れてみるとたった1つではありましたが、コンビニが営業していたりガソリンスタンドの営業も再開されていました。また、数週間後に新しいコンビニがオープンするとのお知らせもありました。住民の方々が本当に震災前の状況に戻れるようになる日が少しずつ見えてきたのかなと特に実感する出来事でした。

最後になりますが、このように実際に現地の様子を目の前で見てくることは非常に大切なことだと改めて感じてきました。最近では3月11日が近づいた時以外には現地の状況も中々報道されなくなってきました。私たちにとっては風化してしまうことであっても、現地の方々にとってはようやくこれから新しい一歩を踏み出す段階です。これからもこのような機会を大切に、積極的に参加していきたいと思います。